

キヌカツギハマシイノミガイ *Melampus sincaporensis* Pfeiffer

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地内に分布する。県内ではヨシ原湿地が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村, 1999)。2010年以降で生貝が確認された生息地は3ヶ所に過ぎず、健全な個体群は汐川干潟の狭い範囲のみに残されていたが、近年明らかに個体数が減少し老成個体ばかりで、新規加入個体群が確認できなくなっている。ヨシ原湿地に特に変化が無く、他のオカミミガイ科貝類は減少していないが、本種だけに著しい個体数の減少が認められる。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



生態画像: 西尾市矢作川河口, 2009年7月15日, 殻画像: 田原市汐川干潟, 1993年11月4日, 木村昭一採集

【形態】

殻長約10mm、殻は卵形で殻表は褐色の殻皮で覆われる。殻には褐色から黒色の色帯があり、その幅や本数は個体によって変異する。

【分布の概要】

【県内の分布】

木村・木村(1999)は三河湾の2カ所(そのうちの1カ所は1995年の漁港整備工事によって生息地が消失)で生息を確認した。早瀬(1998)は伊勢湾奥の1カ所で2個体の生息を確認したが、この生息地は堤防補強工事に伴う塩性湿地内の工事用通路造成で完全に消失した(早瀬・他, 2014)。伊勢湾側での本種の個体群の消滅が危惧される。2002年に渥美半島小河川の河口部(三河湾)で新たに生息地を確認したが、個体数は非常に少なかった(木村・木村, 2002)。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、シンガポール、国内では三浦半島(個体群消滅; 葉山しおさい博物館, 2001)以南、三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、玄界灘、大村湾、有明海、八代海に分布する(木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

上述したようなヨシ原湿地内の朽ち木や落葉の下や湿った土壌の表面に生息する。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなヨシ原湿地と上部の陸上植生が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したようなヨシ原湿地と上部の陸上植生を保全する。

【特記事項】

県内は本種の現在確認されている分布の東限である。

【引用文献】

葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.

早瀬善正, 1998. キヌカツギハマシイノミガイ庄内川河口に生息. かきつばた, (24): 12. 名古屋貝類談話会.

早瀬善正・川瀬基弘・木村昭一, 2014. 庄内川河口で確認された名古屋市新記録を含む滅亡危惧貝類 5 種. かきつばた, (39): 31-36.

木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.

木村昭一・木村妙子, 2002. 新堀川河口塩性湿地の貝類相. かきつばた, (28): 13-14. 名古屋貝類談話会.

木村昭一, 2012. キヌカツギハマシイノミガイ, p. 99. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)